

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 28 日現在

機関番号：14401

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2009～2012

課題番号：21720120

研究課題名（和文） イラン口承文芸の現地調査資料に関するデータベースの構造化と民俗学的応用研究

研究課題名（英文） Development of a Structured Database for Field Study Materials of Iranian Storytelling and Folkloristic Applied Research

研究代表者

竹原 新 (TAKEHARA SHIN)

大阪大学・大学院言語文化研究科・准教授

研究者番号：20324874

研究成果の概要(和文):イランの口承文芸に関する構造化データの作成と分析システムの拡充、および、フィールドワークによるイランの口承文芸の資料収集が本研究の基盤的な活動である。分析システムはペルシア語の特性が考慮された特有のものである。イランでフィールドワークにより収集した口承文芸資料は民俗学の分野における重要な成果である。また、成果として、拡充した構造化データと分析システムを用いた研究、および、収集した口承文芸資料を利用した研究がある。

研究成果の概要(英文): The basic activities of this research are development of a structured database on Iranian folklore and resource acquisition of Iranian folklore through fieldwork. The analysis system is unique one that peculiarity of Persian language has been taken into account. Material of Iranian folklore that has been gathered through fieldwork in Iran is an important result in the field of folklore. Furthermore, there are some results by using of material gathered in Iran and the structured database and the analysis system.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2010年度	700,000	210,000	910,000
2011年度	700,000	210,000	910,000
2012年度	700,000	210,000	910,000
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・各国文学・文学論

キーワード：その他の外国文学

### 1. 研究開始当初の背景

イランの口承文芸資料に関しては、英、仏、独などの研究者による調査による資料があるが、収集方式の不統一や各資料の分量の少なさなどの問題があった。たとえば、採録日時、採録地、話者の情報が不明確な場合、あるいは、話者が語った言葉がそのまま記録されていない場合などがあり、学術的な研究に耐えうる資料として、必ずしも十分とは言え

ないことがあった。この資料的不備を少しでも解消する意味も含めて、研究代表者(竹原)は平成10年度にイランに8ヶ月滞在して口承文芸に関する現地調査を行い、その資料と研究成果を平成13年度科学研究費補助金(研究成果公開促進費)により公刊(竹原新、『イランの口承文芸－現地調査と研究－』(溪水社)、1頁～942頁、2001年)した。さらに、この資料について、平成15～1

7年度科学研究費補助金（若手研究B）および平成18年～20年度科学研究費補助金（若手研究B）による研究活動によって、XML形式に基づくペルシア語口承文芸資料のデータベースを構築してきた。本研究は、ベースとなるこれらの研究プロジェクトをさらに発展させる内容であり、学術的にはこれら資料の価値をさらに高めるためのデータベース化、及び、その民俗学的研究への応用という位置づけを持つ。文学系の研究であってもコンピュータ技術を応用することで、分野と方法によっては飛躍的に研究効率が高まるであろうことは想像に難くない。未来においてスタンダードの一つとなる研究方法を先取りすることにより、人文科学の分野に新たな発展の可能性を提示することを目的とした。

本研究によって、民俗学の盲点とも言えるイラン口承文芸学の分野において、資料の現地における収集、整備及び分析を着実に実施することにより、我が国が当該分野の研究を主導する役割を担うことを目指した。また、本研究は、民俗学の分野のみならず、言語学、イラン地域文化学、および、情報工学の各分野と密接に関連している。本研究期間中に従来行ってきたこれらの学問領域の研究者との交流を継続して行い、且つ、その結果を研究に反映させることで、本研究で採用する方法論を新しい学問分野として定着させることを試みようとしていた。

## 2. 研究の目的

### (1) 研究の目標

「イランにおける現地調査」、「データベースの構造化」、および、これを用いた「民俗学的分析」の3点に集約して述べる。

#### ① イランにおける現地調査

これまでの調査活動によってイランには多数の口承文芸資料が潜在的に存在することが分かっている。従来の方針に従って新規調査を行い、体系的に資料化する。また、経験的に、過去の調査に関して現地における再確認が必要な事項が多数出てくることがわかっているため、現地における確認調査を行い、不明点を補足する。

#### ② データベースの構造化

現有する単語単位でセグメント化されたXML形式の資料に、依存関係、照応先等の統語情報を付加し、構造化を強化する。この作業においては、英語、日本語等の主要言語で方法論の確立が進んでいるGDA方式を参考にする。また、これまでの作業により、テキストの各単語から機械的に参照させる形の外部辞書としての意味属性情報を保有するが、さらに分析の精度を上げるために意味

属性情報の拡充を行う。

#### ③ 民俗学的分析

統語情報と意味属性の2種類のデータを分析することにより、特定の意味属性を持つ名詞に係る形容詞の意味属性の傾向を明らかにすることができる。名詞語彙を中心として総合的に分析する。

(2) 特色・独創性および予測される結果と意義  
フィールドワークで得たイランの伝承文化資料の統語情報を含む本格的なデータベースの構造化は、学会等で公表された限りにおいて、研究代表者（竹原）の研究が世界で初めての試みである。本研究を実行するためには、イラン現地調査、ペルシア語データベース資料の作成、民俗学的分析のそれぞれの研究過程における相応の熟練度が求められる。研究代表者（竹原）はこれらの一連の作業過程に精通しており、確実に一定の成果が得られることが予測できる点も特色の一つと言え、実施の意義がある。

イランにおける現地調査に際しては現地研究機関の協力が不可欠であるが、欧米の研究機関の研究者に比べ、我が国の研究機関の研究者はイランにおける研究が比較的容易に実施できる状況にある。また、イランにとって文化的、宗教的に中立である唯一の主要先進国である日本の研究者が本研究を行うことは研究成果の客観性がより高まるため意義がある。外的な環境においても明らかに我が国に国際的なアドバンテージがある研究分野であるため、その結果として国際的評価を得る機会が豊富にあることが本研究の利点であり、特色と言える。

## 3. 研究の方法

研究期間を通じて、イランの口承文芸を中心とする伝承文化に関する現地調査、データベースの構造化、およびこれを用いた民俗学的分析の3点を中心として、次に示す方法により研究活動を行った。なお、データの整理等の単純な作業に関しては、ペルシア語の専門知識を有する大学院生等を研究補助者として活用した。

### (1) イランにおける現地調査

イラン・イスラム共和国テヘラン州内において、話者と対面して録音する方式で口承文芸に関する現地調査（フィールドワーク）を行い、音声資料および話者の写真を収集した。調査を円滑に進めるため、イラン国内で概況調査、人脈形成等を行いつつ、安全に配慮しつつ、丁寧に作業を進めるよう心がけた。

### (2) データベースの構造化

形態素レベルに整形したXML形式の民話資

料について、GDA方式を応用する形で、データを付加・拡充し、XMLデータと意味属性情報との形態素レベルでのリンク精度を高める作業を中心として行った。これにより、精度が高められたXMLファイルの数がさらに増えた。

### (3) 民俗学的分析

上記の3-(2)の作業において精度を高められたデータをデータベースに組み込み、分析するための検索システムの拡充を行った。このシステムを用い、民俗学的観点からの分析を進めた。

## 4. 研究成果

イランの口承文芸を中心とする伝承文化に関する現地調査、データベースの構造化、およびこれを用いた民俗学的分析の3点を中心として活動を行った結果、次のような成果が得られた。

### (1) イランにおける現地調査

平成21年度から平成24年度までの毎年度イラン・イスラム共和国テヘラン州内において、口承文芸に関する現地調査を行い、過去の調査の不明点に関する確認調査を行うとともに、新規に音声資料および話者の写真(肖像)を収集した。音声資料は翻字(ペルシア語)した。

確かに、イランには口承文芸が残存しているのであるが、年々、特に民話と伝説の収集が難しくなってきたと感じた。これに対し、民間信仰や現代伝説は比較的容易に収集できた。

なお、各年度における新規調査の内容をタイトルの例示により簡潔に示す。

#### ①平成21年度の調査内容

「ジンの話」、「しわしわの雌鳥の話」、「断食とその後の食事の習慣」、「モハラム月の習慣」、「アール」、「ゲール」、「昔の僧侶」、「護符の利用」、「2番目の妻が来るのを予防する方法」、「雨乞い」、「産婦と赤ちゃんに印をつけること1」、「産婦と赤ちゃんに印をつけること2」、「エスファンドの煙で赤ちゃんへ印をつけること」、「牛の乳搾りの方法」、「邪視よけの護符」、「結婚式で歌う歌」、「赤子の周りに線を引くこと」、「生後6日目に赤子の周りに線を引くこと1」、「生後6日目に赤子の周りに線を引くこと2」、「夢の解釈」、「赤子の歯が抜けること」、「願いをかなえるために髪の毛を抜くこと」、「姑の口を閉ざすこと」、「年の変わり目にすること」、「尻を搔くこと」

#### ②平成22年度の調査内容

「邪視を受けないための呪い」、「シャング

ールとマンガールとガラダングールの話」、「雨乞いの祈り」、「ハンマームの暗闇について」、「洞穴」、「昔は大概、暗く少し気味が悪かった馬小屋や家畜小屋について」、「難儀解きの豆の話」、「アールとアズマーベヘタラン」、「早朝の詩」、「アールと赤子の10日目と7日目の風呂」、「結婚式前夜の風習、砂糖を投げる儀礼」、「嫁入り道具の運び込み」、「廢墟のジンの話」、「ジンの鳩の話」、「ジンとパリーの踊り」、「ジンたちに殴られたこと」、「手の平が痒くなること」、「胡椒を靴に入れる風習」、「鉛を熱すること」、「ナイフを扉の敷居に置くこと」、「ニンニクを使って女の判定をすること」、「妊婦の赤ちゃんの性別判定」、「箸を逆さに置いて待つこと」、「ナンがソフレの上で立つこと」、「カラスがカーカー鳴くこと」、「靴と靴が重なること」、「くしゃみ」、「禿禿風風」、「新車のタイヤの下に卵を置くこと」、「便所をキブラの方向に建てないこと」、「護符と問題解決の書を開くこと」

#### ③平成23年度の調査内容

「人を誘惑する魔物」、「アールにさらわれる」という表現、「妖精隠し、ジン隠し」、「夢のお告げ」、「降霊1」、「降霊2」、「ジン使い」、「誕生日の願掛け」、「米を保存するニンニクの性質」、「祈りの捧げられた食材」、「最初の春を迎えた赤ちゃんのためのニンニクを使った祈り」、「最初の春を迎えた赤ちゃんのためのショウガを使った祈り」、「無事を願うためのシナモン」、「ヤギのガンディー」、「チャハール・ゴル」、「妖精たちの結婚式」、「俗信的な行い」、「瘤の上の瘤」、「邪視探しのために卵を割る俗信」、「ニンニクの皮を落とさないこと」、「暗闇の中に赤ちゃんを置くこと」、「夫婦の運を閉じること」、「墓地での肝だめし」、「吉日の引越し」、「引越しと嫁入り道具搬入の際の風習」、「縁起の悪い部屋」、「家の前に墓の土があると不吉」、「断食明けの祭りにおける風習」

#### ④平成24年度の調査内容

「長足の巨人」、「洗濯だらけの占い」、「子供が掃除をするのは客が来る印である」、「ご飯のお焦げが好きな人は結婚の晩に雨嵐になる」、「コップが3つ並ぶのは客が来る印である」、「つむじが2つあるのは妻を二人娶る印」、「歯の間に隙間がある人は将来の夫婦生活がうまくいく印」、「雄鶏が変な時間に鳴くと悪いことが起こる」、「新生児の耳元でアザーンとエガメを唱えること」、「埋葬者は後ろを向いて頭の上から墓に死体を置かなければならない」、「護符書き/砂占い師/鏡占い師」、「ジン」、「公衆浴場で嫁を選ぶ方法」、「爪切りの風習」、「焼かれたライオン」、「奇数本の竹を鉢に植えること」、「井戸のジン」、「マルデズマー」、「施しのためのサマヌー」、「鳩

の姿のジンと遭遇したこと」、「同じ顔の人」、「火をもみ消すこと」、「黒猫を見ないこと」、「廃墟のジン」、「死後40日後の弔いを子供の人数だけ日数を延期すること」、「バフタク」、「厄払いで食器を壊すこと」、「ジン憑き」、「胡桃の木、さくろの木、柿の木を根っこから抜いてはいけない」、「桃の木が邪視を受けること」、「自動車のために血を流すこと」、「シャラフ・シャムスの呪い」、「アール」、「瘤の上の瘤」

## (2) データベースの構造化

外部辞書ファイル内において複数の語義がある単語について語義ごとにデータを分割した。これに対応して、GDA を応用する形でXML データ化された資料内に出現する単語について語義が特定できる形で外部辞書内のデータにリンクさせる作業を行った。研究期間内に民話資料の主要部分である動物寓話、本格昔話、笑い話と小話の一部について作業を終えた。

## (3) 民俗学的分析

上記4-(2)の作業により XML データにおける数多くの形態素の属性値を外部辞書内の意味属性情報に実体参照させる形でリンクさせることができたため、より分析の精度が向上したシステムとなった。このシステムを用いた成果として「イラン民話における呪物についての抽象的表現」(『イラン研究』第8号)がある。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

①竹原新、「現代イランの消極的呪術」、『イラン研究』、第9号、61-85、2013、査読有

②竹原新、「イラン民話における呪物についての抽象的表現」(研究ノート)、『イラン研究』、第8号、183-199、2012、査読有

③竹原新、「現代イランの積極的呪術」、『イラン研究』、第6号、128-159、2010、査読有

[図書] (計2件)

①竹原新、楽瑯書院、篠田知和基編『異界と常世』(2013)、分担部分「イランの口承文芸における異界の者たちとその社会」、359-406

②竹原新、勉誠出版、井本英一編『東西交渉とイラン文化』(2010)、分担部分「イランのこぶとりじいさんとその背景」、96-109

## 6. 研究組織

(1) 研究代表者

竹原 新 (TAKEHARA SHIN)

大阪大学・大学院言語文化研究科・准教授

研究者番号：20324874

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし